

平成18年度

取扱注意

# 授業改善推進プラン【小学校】

- ①平成18年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画
- ②平成18年度第2学年・第3学年・第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析  
現第5学年 平成17年度第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
- ③現第6学年 平成17年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)  
結果の内容別・観点別の分析
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科

東京都北区立滝野川第六小学校

| 平成17年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を受けての分析 |   |
|----------------------------------|---|
| 国語                               | ①相手や目的、意図に応じて、言語活動をさらに充実させる。<br>②目的や意図に応じて構成を考えながら書く力や文章の要旨を的確に捉えながら読む力を育てる指導の充実を図る。                  |
| 算数                               | ①図形の性質について調べたり、作図したりする作業的・体験的な活動を通して、理解を深める指導を充実させる。<br>②二つの量の対応や変化に気付かせ、図や具体物で調べ、関数的な見方を育てる指導の充実を図る。 |
| 社会                               | ①基礎的資料から複数の情報を正確に読み取り、表現することを通して、理解を深める指導の充実を図る。<br>②基礎的資料から事実を読み取り、課題を見つけ追究する活動を通して、思考・判断する指導を充実させる。 |
| 理科                               | ①既習事項や規則性を適用したり、共通点を見いだしたりする力を育てる指導を充実させる。<br>②自然事象を日常生活と関連付けたり、体系的に捉え直す場を設けたりして、実感できる指導を工夫する。        |

|                    |
|--------------------|
| 本校の教育目標            |
| ○かんがえる子、つよい子、やさしい子 |
| ○認め合い、学び合う楽しさと     |
| やりとげた喜びのある学校       |

|  |
|--|
| 本校が児童に育成したい力   |
| ○「はやね・はやおき・朝ごはん」をキャッチフレーズとして、基本的な学習習慣・生活習慣を身に付けさせる。                                      |
| ○「話す力」、「聞く力」、「コミュニケーション能力」を高めることを校内研究のねらいとし、日常の全教育活動を通して育成する。                            |
| ○「読む力」、「書く力」、「計算する力」の育成を重視した年間の学習活動の取り組みを通して、基礎・基本の定着力を高める。                              |
| ○「計算式を導き出す力」、「結果を関連付けたり、規則性を導き出したりする力」(考える力)、「課題を見つけ追究し、解決していく力」(課題解決力)等を各教科の学習を通して育成する。 |

|  |
|--|
| 学力向上にかかわる経営方針                                      |
| ○基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、学ぶ喜び、成就感を高め、意欲的に学び続ける児童を育てる。 |
| ○取り組む内容を明確にしたり、目標を数値化したりすることによって、「見える教育」を推進する。     |

| 本校の授業改善に向けた視点   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 指導内容・指導方法の工夫  | 教育課程編成上の工夫  | 校内における研究や研修の工夫  | 評価活動の工夫   | 家庭や地域社会との連携の工夫  |
| ○毎朝10分程度、始業前に「朝の読書タイム」を設定する。毎週火曜日と金曜日、各15分程度「漢字・計算タイム」を設定し、金曜日は定着度を測る。<br>○夏季休業中に15日の学習相談日を設定し、学びの継続を図る。また、漢字検定を実施する。 | ○個に応じた指導により個々の学力を伸ばす。<br>そのため、少人数指導を算数に絞り2年より行う。習熟度別学習を工夫し、「計算する力」や「計算式を導き出す力」や「考える力」、「課題解決力」を育成する。 | ○「豊かに表現する子ども」を主題に、話す力・聞く力・コミュニケーション能力を高める研究を進める。全教員が計画的に研究授業を行い、授業に生かす。<br>○都の「学校への芸術家等派遣事業」を受け、リーダーズシアターの手法を活用した表現力を高める指導の研修を行う。 | ○低・中・高での交流学习を重視し、児童相互の評価力を高める工夫をする。<br>○毎月、基本的な生活習慣の自己評価カードを記入させることで学習や生活の習慣の改善を図るとともに、自己評価力を育てる。<br>○二期制を生かし、個々の学習到達度やよさを多面的にとらえ、指導と評価の一体化を図る。 | ○夏季休業中の個人面談を通して、個に応じた学習課題、学習や生活の習慣の改善等について、保護者との共通認識を図る。<br>○学校公開日や学校図書館ボランティア等の活動を通して、保護者・地域の方の参加型授業を進める。<br>○挨拶や敬語等の正しい言葉遣いができるよう保護者と協力し実践する。 |

平成18年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立滝野川第六小学校

| 国 語  |   |   |
|--|---|---|
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| 漢字の読み書きや説明文の読み取りはよい。読書が好きな子どもたちの姿が現れている。しかし「話を聞き取る」「文章を書く」力が区の平均よりも下回っている。先生や友だちの話を聞くことや自分の気持ちを表現することを苦手とする子が多い現状と重なる。 | 言語についての知識・理解・技能はほとんど全員が満点をとるという非常に良い結果を残している。しかし、「書く能力」は期待正答率を下回っている。自己表現は「書く」ことだけではなく、話す場面でも不得手である。                            | 一人で取り組む読書は得意である。しかし、友達に対する自己表現や友達の話を聞く等、聞き取りの力がやや足りない。教室内でもコミュニケーションの不足による子ども同士のトラブルが多いことから納得できる。 |
| 算 数  |   |   |
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| 「数の大きさくらべ」「たし算」は100%の正解である。「長さくらべ」は一人を除き全問正解である。そのほかの単元も二人から三人の不正解者がいるが、他は全問正解である。                                     | 数学的な考え方は区平均よりも高い。不正解者の二人も比較的高い正答率である。「数量や図形についての表現・処理」は全問正解者が半分に減り、少しずつまちがっている児童が半分いる。「関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」は不正解者の正答率が低い。 | 期待正答率を下回っている児童が二人いる。他の児童はほぼ100%の正答率である。これらのことから、二人については個別の機会を多く設け、きめ細かな指導をしていく必要があると考える。          |

平成18年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

| 国 語   |  |   |
|---|--|---|
| 内容別結果の分析  | 観点別結果の分析   | 内容・観点のクロス分析   |
| 「物語の内容を読みとる」ことについては、全体的な内容の理解は比較的良好であったが、「話の内容を聞きとることや、「作文」「漢字を書く」ことなど、聞くことや書くことの内容については無答で提出した児童も多く、全体としても課題である。 | 「読む能力」については、全体的に高い正答率であったが、「話す・聞く能力」や「書く能力」では、全体的に課題が残った。「国語への関心・意欲・態度」についても、個人差が大きいというのが特徴であった。                   | 「読むこと」については、全体的によく理解できていたが、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に課題が多い。また、文章を書くことに対して、強い苦手意識をもっている児童もいて、「国語への関心・意欲・態度」にも個人差が見られる。      |
| 算 数   |  |   |
| 内容別結果の分析  | 観点別結果の分析   | 内容・観点のクロス分析   |
| 「たし算やひき算の筆算」や「かけ算の問題」については、全体的によくできていたが、「いろいろな形」や「長さ」についての理解が特に曖昧であることが分かった。また、「1000までの数」についても、理解が不十分な点が目立った。     | 「数学的な考え方」では、個人差はあるものの、全体としてはよくできている児童が多かった。ただし、「数量や図形についての表現・理解」「数量や図形についての知識・理解」については、全体的に理解が不十分であることが分かり、課題が残った。 | 問題文をしっかりと読まず、計算した答えをそのまま回答してしまっている児童もおり、結果が思うように出ない児童もいた。全体としては、基本的な計算問題はできていたが、特に図形や長さについての理解が不十分であることが目立ち、課題が残った。 |

平成18年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

| 国 語   |   |  |
|---|---|--|
| 内容別結果の分析  | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析  |
| 漢字の読みと話し合いの内容を聞きとることはよくできた。漢字を書くことや作文はもう少しである。最も正答率が低かったのは、物語や説明文の内容を読み取ることだった。段落構成を考えると、あらすじや登場人物の心情を読み取る力が不足していた。 | 「聞く・話す」についての正答率が1番高かったのは、校内研究の成果が現れていると思う。関心・意欲・態度もほぼ満足できる。1番低いものは「読む」能力であった。長文の読解が特に落ち込んでいる。言語事項や書くことにも力を入れる必要がある。 | 「関心・意欲・態度」や漢字の読み「聞く・話す」などは、だいたいよい。しかし、漢字を書くことや言語事項、作文に力を入れる必要がある。1番の課題は、物語や説明文の読解である。文章を深く読み取っていく力を付けさせることに早急に取り組む。                      |
| 算 数   |   |  |
| 内容別結果の分析  | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析  |
| わり算では大変に高い正答率が得られた。足し算・引き算・かけ算・大きな数もよくできた。図形の特に箱の形の落ち込みが大きかった。いろいろな形「長方形・正方形・直角三角形」や「かさ」でも課題が残った。                   | 数量や図形についての表現・処理はよくできた。しかし、数量や図形についての知識・理解での落ち込みが大きかった。箱の形では、頂点・辺・面の関係がとらえられない子が多かった。関心・意欲・態度もやや課題が残った。              | 足し算・引き算・かけ算・わり算の計算力は付いている。大きな数も理解できている。図形についての知識・理解が不十分であった。立体の箱の形では、知識・理解が特に不足していた。忘れてしまっていて答えられない子が多かったようだ。算数への興味・感心・態度を高めていくことが課題である。 |

現 第5学年 平成17年度(平成18年1月8日実施) 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

| 国 語  |   |  |
|--|---|--|
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析  |
| 説明文の読み取りに関しては、比較的理解ができていたが、物語文の読み取りや主語述語等、文章の構成について、ローマ字の記述については課題が残った。また、話し合いの内容の聞き取りについても課題が残った。                         | 関心・意欲・態度の低さがその他の領域にも影響を与えていると考えられる。特に言語については、二極化が見られるものの、全般的に漢字の書き取りが課題である。また、話す・聞くについても話の内容の聞き取りに課題が残った。 | 関心・意欲・態度を始め、全般的に課題が残った。なかでも、漢字の読み・書き、言語の知識については理解が低く、文章の読み取りにも、その影響が見られる。また、文の構成の理解や、話の要点の聞き取りについても課題が残った。       |
| 算 数  |   |  |
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析  |
| グラフの読み取りや表の読み方、書き方については、比較的良好に理解できていたが、わり算、特に2ケタで割るわり算や大きな数を割るわり算の計算については課題が残った。また、円と球については理解できているが、正三角形の性質の理解については課題が残った。 | 算数への関心・意欲・態度は比較的高い正答率であった。また、数量や図形に関しての知識・理解は高かった。しかし、数学的な考え方や、数量や図形の表現・処理については課題が残った。                    | 算数への関心・意欲はあるが、全般的に課題が残った。中でも、わり算の計算や、少数や分数の基本的な理解など基礎の部分での理解に課題が見られた。また、表やグラフ、図形など、知識はあるが、それが充分でないためか、表現に課題が残った。 |

現 第6学年 平成17年度 第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会) 結果の内容別・観点別の分析  
 北区立滝野川第六小学校

| 国 語  |   |   |
|--|---|---|
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| すべての内容において非常に高い正答率であった。特に「言語事項」の正答率が高く、1週間に1度、合格点を決めて取り組んでいる漢字10題テスト、2ヶ月ごとに行っている50題テスト、1～4年生までの漢字は宿題で取り組んできたことが、漢字の定着につながっていると考えられる。 | どの観点も非常に高い正答率を示し、その中でも特に「関心・意欲・態度」がとても高い。普段の授業においても、音読や百人一首の暗記など様々な活動に一生懸命取り組む姿勢が反映されていると考えられる。                           | 普段の授業から、国語の学習に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢が「話す聞く」「書く」「読む」などの力を、バランスよく伸ばしていると考えられる。その中でも「読む」の正答率が若干低いので、今後、力を伸ばしていく。                     |
| 算 数  |   |   |
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| 「数と計算」「数量関係」においては高い理解が見られたが、「量と測定」「図形」においては正答率が低かった。なかでも、計算の決まりをつかかって簡単な式にして考えるという問題の正答率が低かった。また、割合の学習内容が十分に理解されていなかった。              | 「関心・意欲・態度」においては非常に高い正答率であった。学習内容を理解していても、文章問題になると式を立てるのに考えこんでしまう児童が普段の授業でも見られるので、「数学的な考え方」については、今後の課題とし、指導を工夫して思考力をつけていく。 | 内容別結果から、「図形」と「量と測定」は理解が十分でないことがわかったので、定着していない学習内容については全体で復習する時間をとる。その際には、観点別結果からわかるように、文章から式を立てるような「数学的な考え」を使った問題に取り組ませていく。 |
| 社 会  |   |   |
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| 「我が国の食料生産」「地域学習」においては非常に高い理解を示している。一方「我が国の工業生産」の正答率がやや低く、工業地帯の特色や資料から考察する力が十分ではないと考えられる。   | 「関心・意欲・態度」については非常に高い正答率であったが、「資料活用の技能・表現」においていくつかの資料から読み取ったことをもとに、特徴などを考察する力に課題が残る。                                       | 我が国の食料生産や地域学習については非常によく理解しているが、我が国の工業生産については課題が残った。工業地域の特色を十分に理解させ、かつ、資料から読み取って、考察する力を今後高めていきたい。                            |
| 理 科  |   |   |
| 内容別結果の分析   | 観点別結果の分析  | 内容・観点のクロス分析   |
| すべての内容においては高い正答率であった。その中では若干、「物質とエネルギー」の正答率が低く、特に、ものあたたまりかたのなかの金属と水のあたたまりかたの違いの理解が不十分であった。   | 「関心・意欲・態度」については非常に高い正答率を示し、普段から、実験や観察にも意欲的に取り組んでいる成果が反映されていると考えられる。「科学的な思考」についてはやや正答率が低く、課題が残った。                          | 内容別結果から「物質とエネルギー」は理解が十分でなく、観点別結果の「科学的思考」もやや低いことから、実験や観察に取り組む際には、課題を見つける、解決する、考察するなど「科学的な思考」をつかう時間をゆっくり取り、思考力を伸ばす。           |

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

北区立滝野川第六小学校

| 学年 | 指導方法の課題分析   | 具体的な授業改善案   | 補充・発展指導計画  |
|----|---|---|--|
| 1年 | ひらがなの学習については、正しい書き順で書くことができるようポイントを唱えながらいっしょに空中書きをした後、繰り返し練習し定着を図ったが、まだ十分といえない児童もいる。また、筆圧が弱かったり、鉛筆が正しく持てなかったりする児童もいる。今後も一斉指導と個別指導で定着を図っていく。 | 毎朝、音読集『ひばり』の中から詩を選んで全員で音読することや、家庭学習で取り組んでいる音読カードを使つての音読練習を今後も継続していく。一時間の授業の中に「聞く、話す、読む、書く」などの活動を取り入れた学習をし、基礎的な力が身につくようにする。継続して読み聞かせを行う。 | 音読発表会やリーダーズ・シアターの手法を使った表現活動をできるだけ多く取り入れ、その発表の場を通して異学年との交流を図る。学習カードや自己・相互評価カード等を活用し認め合い、学び合う楽しさと達成感を実感できるようにする。ボランティアの方々等による読み聞かせを2ヶ月に1回行う。 |
| 2年 | 学習の個人の理解度は高い。話しを聞く、書く等の力不足が見られる。力を付けるためには、日々の日課に発表の場を設けたり、日記を書かせたりするなど、毎日の継続的な指導を行っていく。   | 自己表現のために自分や友達を見つめ認める場をより多くする。発表や作文の時間を使い、表現方法を細かく指導し、発表へとつなげる。一人のできるようになるまで、根気強く指導していく。   | 朝の会、帰りの会を発表の場とするなど継続的な指導をする。毎日の宿題の中に日記を取り入れ、書くことによって表現したり、伝えてりする習慣をつけさせていく。  |
| 3年 | 課題の内容をしっかりと聞き取れていない場面が目立つ。話を最後までしっかり聞き、理解する力を育てていく必要がある。また、みんなの前できちんと発表したり、体験したことを書いたりすることに苦手意識をもっている児童もいるので、重点的に取り組んでいく。                   | 話を聞く際のルールをさらに徹底していくとともに、話の内容がどの程度聞き取れたのかを確認する機会を増やしていく。また、朝の会のスピーチや、1週間をふりかえつての簡単な日記などの活動も取り入れ、話すことや書くことの言語活動の機会を増やしていく。                | 話し合い活動やインタビュー活動、発表会等を通して、「聞く」「話す」力の定着を図っていく。また、クラスで実施している復習漢字ミニテストは、合格したものについても再度時期をおいて取り組むことにより、漢字の読みや書きのより一層の定着を図っていく。                   |
| 4年 | 「聞くこと・話すこと」に力を入れる。最後までしっかり聞き取り、内容を理解する力を育てる。漢字や作文など書くことに苦手意識を持つ子がいる。物語や説明文など長文になると読み取る力が不足する子が多いので指導に力を入れていく。                               | 「話す・聞く」は児童同士の相互評価を多く取り入れるとともに、1日に1回はチェックを入れて意識化を図るように指導する。漢字のテストや短文作りのテストを定期的の実施して力を付けさせる。長文に慣れさせるために、ページを意識してたくさん本を読ませる。               | 朝や帰りの会でのスピーチで気軽に話す場を確保する。小テストを継続的に行い、成果を示して励みにする。本を紹介したり本を読む時間を確保したり読み聞かせをしたりして、読書の時間を充実させる。家庭学習で漢字やことわざや慣用句などを練習して書くことを習慣化させる。            |
| 5年 | 漢字の読み書きを始め、言語の理解について課題が残る。そのことにも強く関係して、物語文の読み取りについても課題が残る。また、主語・述語など文章の構成の理解も不足しており、話の内容の聞き取りにも課題が残った。                                      | 毎授業時に漢字の読み書きを学習に取り入れ、漢字への抵抗をなくす。物語文の学習では音読を多く行うことで、教材文の美しさに触れ、関心を高める。また、リーダーズシアターの手法を取り入れ、簡単な劇にすることで、文を深く読み取れるようにする。                    | 毎週水曜日に漢字テストを行うことで目標をもたせ、家庭でも毎日漢字練習に取り組めるようにする。毎日の宿題プリントを通して、言語力の向上にも努める。朝の読書時間に読むことに親ませ物語文への関心を高める。毎朝日直のスピーチを実施して話の要旨を正確に聞き取る練習をさせる。       |
| 6年 | 物語文では情景や登場人物の心情を、説明文では段落構成や要旨、筆者の主張の読み取ることに力を入れていたが、まだ十分でない児童もいた。また、漢字については毎週10題の小テスト、学期ごとに50題の大テストを行ったが、5年生までの漢字の定着に課題が残る。                 | 説明文においては、まず短い文章で接続詞や段落ごとの内容に注目させ、段落構成の仕組みについて理解させるようにする。物語文は読書の時間を利用し、文章にふれる機会を増やすようにする。漢字を普段から使う習慣を身につけさせ、ノート指導の充実を図る。                 | 毎朝、音読集より漢字の短文の5題ずつ読む時間をとり、語彙力を高めていく。また、毎週の漢字テストを引き続き実施し、定着の低かった漢字は宿題などで復習プリントを作成し、練習する。また、学期ごとのまとめのテストに今までに習った漢字を出題し、定着を図る。                |

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立滝野川第六小学校

| 学年 | 指導方法の課題分析   | 具体的な授業改善案  | 補充・発展指導計画  |
|----|---|--|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ具体物を使い、児童が興味・関心をもって取り組み、理解できるようにしたが、ブロックなどの半具体物から数字を使ってあらわしていく過程で、特に文章題になると意味が十分に理解できない児童もいた。たし算とひき算の答えを考える際に指を使って答えを出す児童がいた。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を使った導入は、効果的なので、今後も具体物を活用しながら児童の興味・関心を高める工夫をしていく。10の合成・分解については、全員が十分理解してすぐ答えられるように、ゲーム等も取り入れながら定着を図る。問題や式の意味をしっかりとつかんでいるか確認しながら進める。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日の計算タイムの時間を使って基礎的・基本的な内容の定着を図る。計算ドリルを活用し、理解を深める。学習したことをもとに自分たちで問題を作り、出し合ったり、二人組やグループ学習など多様な形態で学習を進めたりしながら児童の意欲を高める工夫をしていく。</li> </ul>                           |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>理解力や技能が高い児童と極端に遅れの目立つ児童の差が大きく、その対応や個別指導に多くの時間を要した。</li> <li>速く解答しようと熱心に取り組むが、教師や友だちの話をよく聞かずに取り組み始めてしまう児童がいるので、学習のきまりを定着させることが必要だった。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別にコースを分ける。具体物からきまりを導き出す過程に十分な時間をとり、児童に考えさせるとともにそれを積極的に発表できるようにする。</li> <li>教科書の問題文だけでなく、同様の課題を別に用意し、一人一人の児童が課題に対して真剣に取り組めるようにする。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別基礎コースでは毎授業時ごとに基礎的内容の計算問題を行い、児童一人ひとりが基礎的計算を間違いないで解決できる能力の定着を図る。</li> <li>基礎的内容を身につけている児童に対しては学習の理解を深め広げる内容の学習プリントを用意し、主体的に取り組ませる。</li> </ul>                     |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習する時の基本的なきまりを比較的良好に守っているが、友だちと共に行う学習時にはコミュニケーションがとれなかったり、考えが高められなかったりすることがあり、グループ学習を行う際にはグループ分けなどに注意を要した。</li> <li>友だちと協力して意欲をもって取り組める教材の工夫が必要だった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数習熟度別学習を取り入れ、児童一人ひとりの習熟度に合った授業を展開することにより、本人の意欲を喚起し、友だちと協力して学習する態度を身につけさせる。</li> <li>自主的かつ意欲的に学習する能力と態度を育てるために具体物から考えさせる体験を重視した学習活動を展開する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習発展コースではグループ学習を積極的に取り入れ、お互い話し合ったり、教えあったりすることにより、様々な気づきを大切にしながら発展的学習を行う。</li> <li>形成的評価を行い、補充学習が必要な児童には授業時間以外に繰り返し学習などに取り組ませる。</li> </ul>                       |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習する時の基本的なきまりを定着させるのに時間を割くことが多かった。そのため、学習事項を定着させるために必要な練習問題やくりかえしの学習を行う時間を多くとることができなかった。</li> <li>一人ひとりが意欲をもって取り組める教材の工夫が必要だった。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数学習を取り入れ、一人ひとりに目の届く学習環境の中で、学習する時の決まりをしっかりと守る態度を身につけさせる。</li> <li>整然とした学習環境の下、自ら考え、学習する能力と態度を育てるために体験を重視した学習活動を展開する。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別基礎コースでは基礎的な計算問題を行い、一人ひとりが基礎的計算を間違いないで解決できる能力の定着を図る。</li> <li>形成的評価を行い、補充学習が必要な児童には放課後などに繰り返し学習などに取り組ませる。</li> <li>発展学習に取り組める児童はパソコンからプリントをとり出し、取り組む。</li> </ul> |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>計算処理に時間のかかる児童や以前に学習したことがなかなか定着しない児童が比較的多く、新しい課題に挑戦しようとする意欲に欠ける傾向があったため、児童の意欲を喚起する教材の開発が必要だった。</li> <li>学習のきまりをしっかりと守ることの大切さを理解させることが課題として残る。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数学習を取り入れ、コース別のそれぞれの学習内容をしっかりと身につけさせるとともに、コース内においても個に応じた指導を徹底する。</li> <li>自分の考えた方法を発表することを多く行うことにより、お互いの考え方を大事にしたり、静かに聞いたりする態度を身につけさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別各コースではお互いが安心して、自分の考えを発表し合い、お互いの考えを聞いて、さらに理解が深まるようにその時間の課題について考えたり、発表したりする時間を十分にとる。</li> <li>形成的評価を行い、補充学習が必要な児童には放課後などに繰り返し学習などに取り組ませる。</li> </ul>              |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に理解度が高いが、児童によっては、じっくりと教師と1対1で学習することが必要な児童もいる。一人一人の児童に対して少人数学習のコースを適切に選ばせることが必要である。</li> <li>練習課題を早く処理してしまうことができる児童に対する発展学習を充実させることができなかった。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数学習を取り入れることにより、一人ひとりの学習進度を見極めつつ、個に応じた学習を行う。</li> <li>数量の関係をとらえさせる中で、変化の規則性を導き出し、問題を解決できるよう、解決の筋道をはっきり理解させる学習活動を展開する。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別ハイパーコースでは毎授業時ごとに発展的内容を取り上げ、数や図形の世界を広げ、分数や小数・図形のもつ不思議さやおもしろさに気づかせる。</li> <li>習熟度別スーパーコースでは毎授業時ごとに基礎的内容を繰り返し学習することにより、確実に身につけさせる。</li> </ul>                      |

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

北区立滝野川第六小学校

| 学年 | 指導方法の課題分析  | 具体的な授業改善案  | 補充・発展指導計画   |
|----|--|--|---|
| 3年 | 学校の周りにある公共施設を調べたり、商店街を調べたりして分かったことを、自分たちも含め地域に住む人々の生活と関連づけて考える力を育てていく必要がある。  | さまざまな施設や工場、博物館等を実際に見学し、いろいろな人たちとかかわりながら学習する機会をできるだけ多く設定する。また、社会見学新聞を作成する活動を取り入れ、自分が体験したことや感じたことを、地域に住む人々の努力や工夫と結びつけてまとめられるように指導していく。 | 学校の近くの商店街やスーパーマーケット、ソース工場等の見学を通して、自分たちの生活と地域の人たちのかかわり方を考えさせる。また、博物館に行き、昔の道具を体験する活動も取り入れることで、それぞれのよさを実感できるようにする。 |
| 4年 | 安全な暮らしを守る消防や警察の仕事を知り、自分たちの生活との結びつきを理解させる。図表や資料を正確に読み取る力を育てることや、それを活用できる力を指導する。資料から課題を見つけ、社会的な思考力を高める。              | 社会科見学をしてわかったことをまとめたり、発表しあったりして全体で共有して理解を深めていく。図表や資料の読み取り方はていねいに確認しながら進める。必要な情報が確実に読み取れるように指導する。                                      | 身近な生活に結びつけて自分とのつながりを考えさせる。地図帳を活用して、地図記号の意味を知らせる。東京の地形や区や町の名前を覚え、地図に慣れさせる。算数や総合的な学習を生かし、図表や資料の読み取りを深めるようにする。     |
| 5年 | 表やグラフを始め、資料の読み取りに課題がある。知識はあるものの、グラフの変化などと合わせて思考するという課題に関しては、苦手とする児童が多い。また、調べ学習については、課題の把握に時間がかかる児童も多く、課題である。       | 表やグラフは、教科書や資料集などを用い、全体で読み取り方をくり返し学習し、力をつけるようにする。授業の中に調べ学習を多く取り入れ、簡単な課題から力を伸ばせるようにする。   | 家庭学習ノートを用い、教科書の学習内容をまとめることを通して、授業での学習の復習をしっかりと行うとともに、調べ学習などで資料をまとめる学習に役立てる。                                     |
| 6年 | 地域学習の理解度が低いことから、以前の学習内容の定着が十分でないこと、統計や資料から読み取ったことから考察する力が十分についていないと思われる。資料や統計を読み取り、自分の考えを組み立てる力を、更に伸ばしていくことが課題である。 | 統計や図表などの資料から変化や現象をできるだけたくさん発見させ、そこから自分の考えをじっくり組み立てる活動を増やしていく。また、様々な資料を関連づけて考察する力も合わせて伸ばしていく。   | 毎日の宿題のなかで47都道府県や地図記号の復習を取り入れる。また、図表や統計、資料などから読み取る課題も宿題のなかで取り上げ、理解を深めるようにする。                                     |

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立滝野川第六小学校

| 学年 | 指導方法の課題分析  | 具体的な授業改善案   | 補充・発展指導計画   |
|----|--|---|---|
| 3年 | 植物や昆虫を育てていく学習活動を通して、以前の状態と比較したり、他の生物と比較したりして考え、具体的に言葉にして記録する力を育てていく。<br>また、観察、実験の過程で、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていく。 | 観察カードやワークシートで観察する時に、必ず自分なりの見方や考えを書き加えるさせるとともに、以前の状態や他の生物と比較して、どのように変化したのかを記録させていく。また、単元の項目を予め提示し、それに沿って学習を進めていくことで、学習の見通しをもてるように工夫する。 | 昆虫の単元では、昆虫とそうでないものを実際に比較させたり、電気や磁石の単元では、ものづくり活動に取り組んだりする活動を重視する。こうした活動を通して、学習したことを生かしながら、科学的な見方や考え方を深められるように工夫する。                 |
| 4年 | 実験や観察は好きだが、その結果から疑問を持ったり、規則性を見い出したりすることが難しい。動植物に興味関心を持ち、世話をすることからより深く関心を持てるようにしていく。                            | 観察や実験の場面を充実させ、予想を立ててから実験に取り組ませる。実験図を正しく書き、実験の感想も毎回書かせる。単元ごとに学習したことをノートにまとめて、学習をふりかえる。   | 家庭にも呼びかけ、ヘチマや月や星の観察を充実させる。さまざまな生き物の観察、実験などを発展させた活動を行い理科好きの子どもを育てる。昆虫は特に男子に人気がある。特に関心深い子に、自由研究として取り組むように支援する。                      |
| 5年 | 実験や観察は好きで、課題の予想や実験方法については自分たちで進んで考えることができる。しかし、結果から考察を導き出すことには課題が残った。  | 課題から実験方法を考え出したり、実験の条件を考えたりすることを通して、思考力を高めるとともに、自分たちで考えることにより、知識をより確かなものにできるようにする。   | 家庭学習ノートを用い、教科書の学習内容を自分でまとめることを通して、授業での学習の復習をしっかりと行うとともに、調べ学習などで資料をまとめる学習に役立てる。また、バケツ稲、ゴボウやメダカを継続的に育てることで、身近な生活の中から疑問や課題を持てるようにする。 |
| 6年 | 学習課題解決において、実験方法を自分で考え、結果から考察する活動があったが、十分に時間を取ることができなかつたため、課題を自分の力で解決する力が十分に備わっていない。                            | 個に応じた指導、助言をしながら課題を解決するための実験方法をじっくり考える時間をとる。また、インターネットや図書資料を活用し、自分の力で調べることで課題解決を図る経験をより多く積み重ねさせる。                                      | 毎日の宿題などで、今までに学習した内容の復習をし、理解を深める。また、単元の最後には新たに興味をもったことや深く調べたいことを追究する時間をできるだけ取り、発展的な内容も学習できるようにする。                                  |